

## 全国学力・学習状況調査の結果について

- 調査期日：平成 31 年 4 月 18 日（木）
- 調査対象：小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年
- 調査内容・ 1 教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語（中学校）〕
  - 2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### 調査結果の概要

#### 【小学校 国語】

領 域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・ 聞くこと	◇ インタビューをして，自分の理解を確認するための質問として適切なものを選択する設問では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 必要な情報を得るために目的に応じて質問を工夫することに課題がある。
書くこと	◇ 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を捉える設問では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くことに課題がある。
読むこと	◇ 知りたいことを調べるために，選んだ本の目次の一部から読むページとして適切なものを選択する設問では，全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながらか読むことにおいて，全国平均を上回っているものの，正答の条件を満たしていない解答と無解答が多く，読みの指導及び言語活動の充実を要する。
言語について	◇ ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いる問題では全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。 ◆ 漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことに課題がある。 ◆ 文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。
<b>今後に向けて</b>	

「書くこと」においては，より説得力をもって自分の考えを伝えるようにしたい。そのために，調べたことを報告する文章では，調べて分かった事実をもとに，自分の考えをまとめて書くことができるようにする。その際，報告する目的に応じてどのような理由や事例を挙げて，自分の考えをまとめることが適切かを十分考えて書くことができるように指導する必要がある。

「言語についての知識・理解・技能」においては，漢字辞典を使って，意味を調べたり，同音異義語を使い分けた単文作りをしたりする学習などを取り入れ，文や文章の中で正しく使うことができるようにする。

【中学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 話合いの話題や方向を捉え、発言の役割について説明することにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◇ 相手にわかりやすく伝わるように的確に話すことにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 話合いの流れを踏まえ、自分の考えを書くことに課題がある。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を選択することにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◇ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすく書くことに課題がある。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◇ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして、自分の考えをもつことにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 文章の展開に即して、情報を整理し、内容を捉えることにおいて、具体的な指導を要する。</li> </ul>
言語について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することにおいては、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 新聞を読み、紙面の投稿先の情報から、封筒へ住所や宛名を記入する問題において、全国平均を下回っており、無解答率が6.8%と、全10問中で最も高く、具体的な指導を要する。</li> <li>◆ 封筒の書き方を理解し、字形を整え、文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題がある。</li> </ul>

今後に向けて

「話すこと・聞くこと」においては、目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる力を身に付けたい。そのために、話合いの話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加できるように指導することが大切である。その際、自分の考えが分かりやすく伝わるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなど学んだ知識を生かして話すように指導するとともに、相手の話を聞きながら、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理するように指導することも重要である。

「言語についての知識・理解・技能」においては、手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして書くように指導することが重要である。総合的な学習の時間との関連を図り、依頼状やお礼状等、手紙を書く相手を定め、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えさせるとともに、日常の文字を正しく整えて書く力を身に付けていく必要がある。

【小学校 算数】

領 域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算を正しく行うことができる。</li> <li>◇ 示された計算の仕方を解釈し、場面によって計算しやすい式にして計算することができる。</li> <li>◆ 示された除法の式の意味理解に課題がある。</li> <li>◆ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する力に課題がある。</li> <li>◆ 複数の数量から必要な数量を選択し立式することに課題がある。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 示された面積の求め方を解釈し、それらを記述する力に課題がある。</li> <li>◆ 資料の傾向や特徴を関連付けて、求められた数量について正しく判断し、その根拠を記述する力に課題がある。</li> <li>◆ 示された場面において、単位量当たりの大きさを基に、割合の求め方と答えを記述し判断することに課題がある。</li> </ul>
図 形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 台形の性質や特徴について正しく理解することができる。</li> <li>◆ 台形の性質や特徴を活用し、新しく示された図形の構成要素を正しく捉える技能に課題がある。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 棒グラフから、資料の傾向や特徴を読み取ることができる。</li> <li>◆ 基準量と比較量を正しく捉え、割合を計算することに課題がある。</li> <li>◆ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることに課題がある。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」、そして「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱を相互に関係し合いながら育成していくという考えのもと、日々の学習指導を進めていくことが最重要事項である。</p> <p>いずれの領域でも、正しく計算をしたり数値をグラフや資料から正しく読み取ったりすることができたとしても、その事実や方法、根拠を説明できるようにしていく必要がある。言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりする活動を通して、自らを納得させたり他者を説得できるようにしていくことを一層進めていかなければならない。</p> <p>図形の学習では、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めたり、図形の構成の仕方について考察したりすることが重要である。そのために、合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせられるような授業展開を進めていくことが大切である。</p> <p>算数における計算の場面では、計算が正確にできるとともに、能率的に行う工夫ができることも重要である。数や式を多面的にみることで、計算に関して成り立つ性質を見いだす力や場面を変えても成り立つか考察する力を身に付けるようにすることが大切であると考えます。</p> <p>児童が、問題を自ら発見し解決するために、事象を数理的に捉え、処理し、解決過程や結果を振り返り、意味づけ、活用するようになることが大切である。そのために、日常生活の中で生じる問題を扱うだけでなく、自らが判断したこと振り返り、評価・改善することができるような学習場面を設定することが大切である。</p>	

【中学校 数学】

領域	結果の概要 (◇：成果 ◆：課題)
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 数の集合と四則計算の可能性について理解できる。</li> <li>◇ 事柄が成り立つ理由を説明することができる。</li> <li>◆ 簡単な連立二元一次方程式を解くことに課題がある。</li> <li>◆ 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることに課題がある。</li> <li>◆ 総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することに課題がある。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 平行移動の意味を理解することができる。</li> <li>◇ 平行四辺形の性質を理解し、その性質が成り立たないことを反例とともに示すことができる。</li> <li>◆ 三角形の合同条件の理解に課題がある。</li> <li>◆ 結論が成り立つための仮定を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。</li> <li>◆ 長方形や台形の定義の理解に課題がある。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することの課題が解消されつつある。</li> <li>◆ グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することに課題がある。</li> <li>◆ 表を使って反比例の式を求めることに課題がある。</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。</li> <li>◇ 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる。</li> <li>◆ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。</li> </ul>

今後に向けて

「数と式」においては、簡単な連立二元一次方程式を解くことができるようにするために、代入法と加減法を使い分けることが大切である。とともにそのよさや活用する場面を考える活動を取り入れることが考えられる。また、式変形の目的を捉えることについても、その過程となる途中式や説明を丁寧に書かせることによって、なぜ式変形を行わなければいけないのかについて実感できるように指導することが大切である。

「図形」においては、図形の形を変えても同じ結論が成り立つことを数学的に表現できるようにするために、図をかいてどのような図形になるのか説明する活動やICTを活用して図形の変化の様子を視覚的にイメージできるような活動を取り入れる。さらに、仮定と結論を明確にして、正しいかどうか説明できるように指導することが大切である。

「関数」においては、比例、反比例などの関係を表から見だし、式に表すには、具体的な事象から2つの伴って変わる数量を取り出し、それらの変化の様子を調べる活動を十分に行うことが効果的である。また、小学校での既習事項を踏まえた上で関数の学習に入ることが重要である。

「資料の活用」においては、代表値についての理解に課題があると考えられるので、表やヒストグラムから資料の代表値を読み取る場面を設定することが大切である。それと同時に、課題解決的な学習を行うことで、資料を整理した結果を基に考えたことを伝え合う活動を行い、資料の傾向を読み取って判断する力を高めていきたい。

【中学校 英語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 語と語の連結による音変化をとらえたり、教室英語を聞き取ったりして、情報を正確に聞き取ることができる。</li> <li>◇ まとまりのある内容を聞き、概要や必要な情報をおおむねとらえることができる。</li> <li>◆ 話し手からの依頼や提案などを聞き、適切な応答を返すこと（技能統合型）に課題がある。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。</li> <li>◇ まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる。</li> <li>◆ 社会的な話題について、まとまりのある文章を読み、書き手が最も伝えたいことなど大切な部分をとらえることに課題がある。</li> <li>◆ まとまりのある文章を読んで、話の内容や書き手の意見に対して、自分の考えを示すこと（技能統合型）に課題がある。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 接続詞の働きと用法を正しく理解し、文中で適切な語を選択することができる。</li> <li>◆ 時制や人称を意識して、文脈から適切な文の形式や時制を判断して書くことに課題がある。</li> <li>◆ 与えられた情報に基づいて、正しく主語を選択して文を書くことはできているが、一方で、3人称単数現在時制のときに、適切に動詞を活用させて文を書くことに課題がある。</li> <li>◆ 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文を書くことに課題がある。</li> </ul>
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 考えをもっているテーマに対しては、自分の意見を話そうとする意欲が見られる。</li> <li>◆ 聞いて把握した内容について、やり取りすること（技能統合型）に課題がある。</li> <li>◆ 与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。</li> <li>◆ 完璧な文で答えようとする意識から、理解できたことを伝えるまでに至っていないことに対して、今後の指導を要する。</li> </ul>

今後に向けて

「聞くこと」においては、聞く目的をもった指導を心がけ、話し手からの質問や指示、依頼、提案などを聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答をする活動を繰り返し行っていくことが必要である。

「読むこと」においては、まとまりのある文章を読んで、書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断する力を身に付けさせる必要がある。また、読み取るだけではなく、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、技能統合的な力を育成していくことが大切である。

「書くこと」においては、まとまりのある文章を書くために、事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にして書き進めることや、接続詞や代名詞などを用いて、文章の流れや言い換えなどを意識して指導していく必要がある。

「話すこと」においては、情報や考えなどを即興で伝え合う指導を継続的に行っていく必要がある。Small Talk を計画的に実施し、生徒が関心のある事柄を取り上げるなど、生徒が話しやすくなるようなトピック設定の工夫や、対話を継続・発展させることを意識した指導が求められる。